

# 2025年度愛知県スポーツ推進審議会 会議録

## 1 日 時

2026年2月17日（火）午後1時から午後3時10分まで

## 2 場 所

愛知県議会議事堂1階 ラウンジ

## 3 出席者

出席委員：來田享子（会長）、安藤佳代子、梅村郁仁、熊澤雅樹、佐藤航太、杉江繁樹、鈴木弘子、鈴木みどり、靈池恵量、寺本明日香、照内由美、久田到、松村亜矢子、村上浩司（14名）

欠席委員：石橋直季、大槻洋也、後藤泰之、杉山まゆみ、山田善申、山脇正成（会長除き50音順、敬称略）

県職員：杉浦スポーツ局長始め10名

## 4 傍聴人等

1名（傍聴人1名）

## 5 議事の経過

### （1）開 会

ア 委員20名中14名が出席しており、定足数を満たすことを確認

イ 挨拶（杉浦スポーツ局長）

ウ 挨拶（來田会長）

エ 会議録の署名人として、会長が鈴木弘子委員及び鈴木みどり委員を指名

### （2）議 題

愛知県スポーツ局、アジア・アジアパラ競技大会推進局及び教育委員会事務局から、4項目について報告がなされ、質疑応答を行った。

<報告事項>

ア 愛知県スポーツ推進計画について

【資料1】愛知県スポーツ推進計画について

<質疑応答・要旨>

（來田会長）

愛知県スポーツ推進計画の進捗管理表について、概ね計画どおりとなっているが、子どもたちの体力テストの結果が全く改善していないという点、今の状態ではよくないということとは明らかだと思う。

（安藤委員）

資料1の別添1の2ページにある指標「障害者スポーツ参加促進事業の参加人数」について、2025年度が253人と前年度、前々年度から下がっているが、

何か考えられる理由はあるのか。

**(競技・施設課)**

2025年12月時点の数字であり、実際には2026年1月及び2月もイベントを開催しており、その人数を含めると目標を達成する状況となっている。

**(村上委員)**

先ほど、來田会長からの意見にあったように、やはり子どもたちのスポーツというものが、私も気がかりである。自治体を預かる身として、小中学校、高等学校の子どもたちの運動能力を含めたスポーツに関すること、我々もいろいろと策を練っているが、なかなかうまくいかないのも現実としてある。あま市では「足育から始める」ということをこれから取り組もうとしている。また、委員の皆さんのご意見をいただかなければならないと思っている。

今日、こうやって愛知県スポーツ推進計画の指標の進捗状況を拝見すると、隅々まで事業をされているんだと、改めて気づいたところである。具体的な取組をお聞きでき感謝している。

**(鈴木(み)委員)**

資料1の別添2の「2改正の主なポイント」の「(1) スポーツの価値の再定義」だが、「スポーツと文化芸術等の他の分野が連携する」と記載があるが、これは具体的にどのようなことになるのか。

**(スポーツ監)**

意図するところは、地域活性化をどうスポーツと絡めるかということだと考えている。例えば、アジア競技大会やオリンピックにおいて文化プログラムというものがあるが、こうしたものを意識しながらスポーツ振興を行っていかねばならないと考えている。

**(來田会長)**

もう一つ、国の方針としての傾向を伝えると、スポーツミュージアムやスポーツ博物館はこれまで文化庁が所管しており、文化庁からの事業補助により、これらの施設のネットワーク形成などを行っているが、スポーツ庁の管轄のものとしてスポーツと文化芸術の分野が連携した方がよいという議論がある。また、スポーツの価値というのが競技だけではない側面で理解されるということが望ましいことが基本法の改正にも示されている。

**イ 知事部局におけるスポーツ関連予算と主な取組について**

- ・ 2026年度知事部局におけるスポーツ関連予算
- ・ スポーツ振興課の主な取組
- ・ 競技・施設課の主な取組
- ・ 愛知国際アリーナ課の主な取組

**【資料2】 2026年度知事部局におけるスポーツ関連予算**

**【資料3】 スポーツ振興課の主な取組**

**【資料4】 競技・施設課の主な取組**

## 【資料5】愛知国際アリーナ課の主な取組

### (鈴木(弘)委員)

個人的にグランプリファイナルを観戦させていただいた。本当に素晴らしい大会、設備で大変感激した。今後もフィギュアスケートの大会など開催される予定はあるのか。

### (スポーツ振興課)

スケートについては、現時点で開催が決定している大会というものはないが、有名選手を過去から多く輩出している地域であるため、スケート王国愛知を目指して、そういった大会の招致にも取り組んでいければいいと考えている。

### (梅村委員)

資料4で説明頂いた「あいちトップアスリートアカデミー」の選考会への参加者数の減少は、名古屋市の小中学校でチラシを配らなくなったということが一つの要因と伺っている。我々も名古屋市の小学生や中学生に対して告知活動を行うときに、チラシが配れなくなったことで非常に応募者が激減している状況である。この「あいちトップアスリートアカデミー」に関わらず、様々な愛知県のスポーツ用の広報活動を行っていく際に、チラシが配付できないと言うのは非常に大きな課題であると思っているが、具体的な告知・啓発方法など検討していることはあるか。

### (競技・施設課)

この「あいちトップアスリートアカデミー」に関しての改善方策として、教育委員会と連携し、小中学校で体力測定した際に、一番成績が良い「A判定」を取られた児童生徒に、体力章カードというものが配られるが、そのカードに、「あいちトップアスリートアカデミー」のホームページのQRコードを記載し、先月から配っている。早速、それを見て数件の問い合わせをいただいております、一定の効果が出ている。「A判定」を取る児童生徒は非常に運動能力が高いため、ターゲットを絞ってアプローチすることで、上手くいっていると感じている。ただ、一般的なイベントチラシや、他の事業などのチラシを名古屋市内の児童生徒に配る手段としては、様々なイベント会場で地道に配ったりということを繰り返しながら取り組んでいるところである。

### (梅村委員)

また、何か良いアイデア等があればシェアできればと思う。もう一点、資料4の障害者スポーツ大会の開催、参加促進というところだが、例えばeスポーツやパラeスポーツなども含まれているのか。

### (競技・施設課)

今のところは、個別具体的なものは考えていない。ただし、様々なイベントの中で、eスポーツを活用したものを取り入れるなどの改善は実施している。

### (梅村委員)

障害の有無にかかわらずであるとか、スポーツ基本法の改定において、「集まる」「つながる」が新たに加わったことも少し繋がるかと思ってお聞きさせていただいた。

### (スポーツ振興課)

今、障害者スポーツの観点からご質問いただいたが、e スポーツに関しては、障害の有無に関わらず、様々な世代の皆様がということで、アジア競技大会もだが、競技種目になっている。また、梅村委員からお話していただいたスポーツ基本法の改正においても、情報通信技術を使ったスポーツも出てくる。今後、次期スポーツ推進計画を検討する中で、e スポーツをどう振興していくか検討してまいりたい。

### (梅村委員)

サッカーのe スポーツもあるので、またよろしくお願ひしたい。

### (松村委員)

「あいちトップアスリートアカデミー」について、応募者が 668 人に対し、合格者が 128 人となっている。応募者のレベルは様々だと思うが、かなりの数があふれている。アカデミーに入りたいという気持ちがある大勢の子どもたちを、例えば次のステップに何かつながるような取組など考えられていることがあれば教えていただきたい。

### (競技・施設課)

選考会を実施するにあたって、ユース、パラ部門では県内の各競技団体の方に協力をいただいております、トップアスリートの目のある子どもたちをプロの目で選んでいただいている。そのため、本当に厳しく選考会を通過した子どもたちだけがこのアカデミーに入ることができるが、選考外となった子どもたちも競技団体とのつながりができるため、いろいろなスポーツをする機会の案内をするなど、スポーツを続けていただけるような形で取り組んでいる。

### (スポーツ監)

加えて、選考する際に、様々な計測をしてデータをとる。そのデータを取る中で、「あなたはこういう競技が向いています」といったフィードバックをする仕組みになっている。その仕組みは合格者だけでなく、全参加者に対して行っており、それを活かして、今後の競技活動に活かさせていただければと考えている。

### (來田会長)

県が主催するスポーツ大会への県外・海外からのエントリー数が減少している。これは原因をどのように分析されているのか。

### (スポーツ振興課)

コロナ禍の時に一気に減った部分が徐々に回復しつつあるが、まだそこまで伸びていない。加えて、一部取りやめになった大会もあり、大会の数自体が減少していることもある。ウィメンズマラソンは、ほぼ回復している状態である。大会の数を増やせば伸びると考えられる。

### (來田会長)

プロスポーツチームとの連携の中で、ここでは主な取り組みとして2つ、今回は資料3の1 ページ目に上げていただいているが、これはスポーツ振興のための取り組みということが非常によくわかるイベントだが、地域課題の解決に

向けた取組に相当するイベントには例えばどんなものがあるのかっていうのを、参考までに教えていただきたい。

**(スポーツ振興課)**

例えば、名古屋グランパスの試合において、市町村 PR イベントのような形でやらせていただいて、地域課題の解決として、各市町村に観光に来てほしいとか、地域の特産品を紹介したいという要望に対して、スポーツでたくさん人が集まる場所において、市町村の皆さんに PR をしていただくといった地域の課題解決につながるような取組がある。

**(來田会長)**

地域課題は広いので、具体的なニーズを書いた方がもしかしたらよいかもれない。

**(スポーツ振興課)**

資料3の8ページにスポーツイノベーションが記載されているが、スポーツイノベーションプロジェクトにおいても地域課題の解決が含まれるため、書き方は考えたい。

**(來田会長)**

資料4の10ページ目に、「あいちパラスポ PARK」というイベントが3月開催予定となっているが、日時や場所が決まっているのか。

**(競技・施設課)**

3月22日日曜日にオアシス21を予定している。記者発表前につき情報の扱いにはご注意ください、そのフライヤーなども出てくると思うので、ぜひお知り合いの方々に広報していただければと思う。

**ウ 第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会の開催に向けた準備状況及び今後の取組について**

**【資料6】第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会の開催に向けた準備状況及び今後の取組について**

<質疑応答・要旨>

**(來田会長)**

説明において、一過性のイベントに終わらせてはいけないということを強く主張していただき、本当に感謝している。そのための方策について、前々回の愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会理事会あたりで、ご質問をさせていただいたが、その際は「これからです」と回答があった。この流れでいくと、本当にデリバリーでかなり精一杯になってしまう気がしており、組織委員会は早めに解散するので、レガシー創出の検討は今後、愛知県と名古屋市にそれぞれ移ってくると思われる。そのために、県のスポーツ振興計画の中に一定程度入れておかないとうまくいかないのではないかというふうに思うが、そのあたりどう考えているのか。

**(スポーツ振興課)**

次期愛知県スポーツ推進計画の策定は、来年度から取り組んでいくが、現計

画においてもアジア競技大会・アジアパラ競技大会に関するレガシーということには基本施策の一つとして触れている。また、「アジア競技大会・アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョン」のロードマップを策定し、各局の取り組みも整理している。

推進計画の中ではかなり大きなテーマになるという認識を持っているので委員の皆様にもいろいろご意見を聞きながら、アジア競技大会・アジアパラ競技大会を一過性のもので終わらせないという方向には進めていきたいと思っている。

#### (来田会長)

オリンピック・パラリンピックを行った東京都の場合も組織委員会が作ろうとしたレガシー創出と、都で推進されているものが2本立てであると思うので、同じように取り組んでもよいかと思う。

#### (企画調整課)

我々、開催都市としては、大会開催を契機に取り組んでいくことで、この街をよくしていきたいという思いがある。例えば、すべての人が両大会に安心・安全にアクセスできるようハード・ソフト両面の基準を示した「Aichi-Nagoya 2026 アクセシビリティ・ガイドライン」を2023年の12月に策定した。

まず、ハード面の投資として、県内の競技会場となる市町村のほとんどのスポーツ施設は、約30年前のわかしゃち国体の時期に建設されているが、策定したガイドラインなどにに基づきバリアフリー化や照明のLED化などを進めることで持続可能な施設となるよう取り組んでいる。

加えて、県内の宿泊施設もスポーツ施設と同様にバリアフリー化していくため、2024年度、2025年度に県と名古屋市でそれぞれ補助金を用意した。

一方、ソフト面の取り組みとして、例えばパラアスリートの学校訪問を今年度行っているが、各学校の評価が非常によいため、来年度は今年度の倍以上となる20回を実施する予定である。子どもの心から変えるという取組だが、それが大きくなり、行動変容につながるというところを目指していきたい。

#### (来田会長)

特に子どもの体力について、次の議題にもなっているが、アジア競技大会で初めて身近に接するようなBMXであるとか、あるいは矢作川で行われるカヌースラロームであるとか、この県だからできるという競技があるようになっているので、そういった競技を子どもたちが体験できるような形ができていくとよいなと個人的に思っている。

#### (松村委員)

私もアジア競技大会・アジアパラ競技大会はよい機会だと思い、いくつか関わらせていただいていた。開催する今年が勝負であると思っており、大会後のレガシーを今から大いに広報していく必要がある。県民の皆さんに、アジア競技大会・アジアパラ競技大会を理解してもらい、応援したい、観に行ってみたいと思えるような行動変容を起こすには、やはり第一段階として広報が前面に出てくると思うが、広報の仕方というのはなかなか難しい。

今も SNS で様々な発信をされていると思うが、その内容として、大会がどのように開催されるか、今こういう取組をしている、ということももちろん大事なことではあるが、県民の皆さんが、例えばこの大会が終わった後、この施設は「県民の皆さんにとってこういうふうにご利用ができます」や「今こういう施設はこういうふう生まれ変わります」など、「この大会によって自分たちはこういうふうにご利用できるんだな」とか、例えば障害を持った人たちが、「今までここは苦勞してたところがこういうふうになってすごく利便性が上がるんだ」というようなところとかをパッと見てわかるような動画なりなんりの広報が、この大会の開催期間中が一番強い PR の機会になると思う。ぜひそういう取組みをどんどんしていただきたいと思っている。

また、先ほどの説明の中で、ボランティアスタッフの申し込みが 4 万人を超えているという話があったが、私も北京で開催された夏季オリンピックに出させていただいた時に、ボランティアスタッフの対応でイメージが 180 度変わった。

そのため、ボランティアスタッフを大事にしていきたいという気持ちがある。アジアの選手や関係者が、「愛知県に来てよかった」、「ここで知り合いができてよかった」、「こんな思い出が持てた」というものを各国に持ち帰っていただくために、ボランティアスタッフの対応は要になると思っている。大変なことだとは思いますが、ぜひ、こういった視点で取り組んでいただきたい。

#### (計画推進課)

現在、競技・施設課において「aispo!Do!」というウェブサイトが立ち上がっているが、そこには県内のスポーツ施設の紹介があり、設備やバリアフリーの状況などの情報が掲載されている。それに加え、計画推進課において、様々なスポーツ施設で、例えばボッチャやゴールボールなどパラスポーツに必要な道具の貸し出しができるといった情報を、現在、県内の各市町村に照会している。その情報を集めた後、「aispo!Do!」と連携し、県民に情報を提供していきたいと考えている。

特にアジアパラ競技大会の会場については、集まった情報をもとに情報誌の作成を考えている。イメージとしては、例えば「るるぶ」のようなフリーペーパーでどなたでも手に取っていただけるような、ページ数は少ないが、施設の紹介であるとか、パラスポーツの紹介であるとか、そういったものを大会開催前に作らせていただき、県民に情報を提供したいと考えている。

こうした情報は、アジアパラ競技大会を観に来ていただくきっかけにもなり、パラスポーツがどの施設でできるなどの情報は、アジアパラ競技大会が終わった後も、県民に使っていただける情報として残せるのではないかなと考えている。

#### (来田会長)

ホームページはなかなか難しいのではないかな。こちらがいくら投げかけても、相手が反応してくれないとどうにもならないタイプの発信媒体であり、せっかく情報を掲載しても反応が読めない使いづらさもあれば、一つの集まった情報

としては使いやすい媒体でもある。SNS もバズらないとなかなか皆に見てもらえないということもある。情報誌はどういうところに置くのか。

#### (計画推進課)

現時点の計画では、まずはアジアパラ競技大会の会場がある名古屋市を始め6市には、その大会の会場や市役所に置かせていただこうと考えている。発行部数については、来年度予算においてどのくらいできるのか、これから業者と折衝していく。

来田会長の発言にあるとおり、ホームページに載せるだけでは、そこにアクセスしなければ情報が繋がらないということもある。できる限り発行部数を多くし、その発行したものをPDF などにして、データとして各市町村にもお配りし、必要に応じてプリントアウトしていただき、市町村の窓口に置いていただきたいと考えている。

#### (来田会長)

霊池委員に伺いたいが、計画推進課から説明されたような情報は、愛知県スポーツ協会に行っているのか。

#### (霊池委員)

県とは、様々な面で連携をとっており、全てを網羅的に情報をもっているかどうかはともかく、様々なイベントの周知などについては加盟団体、競技団体、地域団体の方々にも情報は提供している。

#### (来田会長)

スポーツに関する組織のネットワークは使っていることで、それ以外のところをどうするかという話になる。また、非スポーツ領域から審議会の委員になられている方に、ぜひ、お力をお借りしたいところである。

#### (運営支援課)

先ほど、松村委員からボランティアに関してご意見をいただいたが、やはりボランティアは大会の顔と言われるように、本当にその大会を印象付ける象徴的なものだと思っている。そして、ボランティアを通じて、よい大会だったと思っていただけるためには、何よりもボランティアに楽しんで活動していただけることが大事だと考えている。

そのため、まずはボランティア同士のつながりを深め、楽しんでいただくことが重要だと考えており、大きな取り組みではないが、大会に向けた研修を、原則、対面形式にすることや、多様性の理解研修や、昨年12月には大会オフィシャルグッズの開発座談会といったイベントも適宜実施し、こういった機会を通じて、例えば年齢、職業、国籍など多様な背景をお持ちの方々が交流を深めていただき、まずはボランティアが楽しんでいただけるよう現在も取り組んでいる。

### エ 教育委員会におけるスポーツ関連予算と主な取組について

- ・2026年度教育委員会におけるスポーツ関連予算
- ・2025年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

・部活動の地域展開に向けた取組

【資料7】2026年度教育委員会におけるスポーツ関連予算

【資料8】2025年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

【資料9】部活動の地域展開に向けた取組

<質疑応答・要旨>

(梅村委員)

資料8のアンケート結果で、体力合計点が相変わらず低いというところもさることながら、資料8の5ページにある授業が楽しくないとか、スポーツすることが嫌いという数値が全国よりも低い結果は、すごく残念だなと思っている。この楽しくないとか嫌いという理由までわかっているのか。

(保健体育課)

個別の理由まではわからないが、参加できないと面白くないというのは誰でもあると思う。サッカーを例にあげると、足でボールを扱うのは大変難しいため、授業でサッカーのゲームをやると、ボールに触れる子と触れない子が顕著に現れ、触れなかった子は面白くないという回答をすることは想像できる。したがって、皆ができるだけ参加できるようなものということで、例えばフラッグフットボール、これは形を変えた鬼ごっこのようなもので、皆が走り回れるということを主眼に体育授業で取り入れている。

また、アンケートの分析を詳細に中野先生にもやっていただいた。その中で、資料8の6ページにある「どんな時に楽しいと感じますか」では82%が「できた時」と回答しており、教員は、なんとかできるようにしてあげたいという思いで様々ことを教え込もうとするが、実際にデータを分析すると、仲間と何かできた時の方が子どもたちは喜ぶことが多いということで、仲間と一緒に何かをやることにもっと主眼を置くべきだというようなことで、現在、指導をしている。

(佐藤委員)

経済界の立場からというわけではないが、部活動の地域展開は、非常に重要なことだと思っている。こういった指導者の確保をするにあたって、登録された方に謝礼はでるのか。

(保健体育課)

各自治体により額は異なるが、謝金を払っている。今年度まで実証事業を行っているが、その実証事業の中では時給1,600円という単価が示されており、多くの自治体は1,600円で行っているが、2,000円のところもあり、全国では3,000円というところもある。月謝をいくらにすればよいかという議論が、今、各自治体にある。

(佐藤委員)

指導者への謝礼は、基本的には受益者負担が原則になっているのか。

(保健体育課)

受益者負担が原則ではあるが、これまで部活動は、学校の教育活動の一環として、保護者からはお金をいただいていない。そのため、国において、謝金の

財源を国が出すという実証事業をしてきた。来年度からは、国、県、市が3分の1ずつの補助事業という形で実施する。

#### (佐藤委員)

おそらく指導者の確保については、資料9に中部経済同友会の名前もあり、私共の役員企業であれば、東邦ガスも非常に積極的に取り組んでいるということを報道で見たが、どうしても実情として謝礼と裏腹のところもあると思う。そういった仕組みづくりもしっかりと進めていただきながら、おそらく先ほど紹介いただいたようなところが先行して上手くいっている事例なのかなと思うが、できるだけ子どもたちの機会が平等になるように、どちらかというとな手くいかないところに手を差し伸べて、全県で取り組んでいただけるとありがたいと思う。

#### (保健体育課)

愛知県は大学や企業がたくさんあり、非常に恵まれているが、今後は、子どもの数が急激に減少する。学校単位ではこういった運動や文化の活動の継続が難しくなるため、その受け皿を早く作りたいと思っている。

#### (安藤委員)

東京オリンピック・パラリンピックの時に、教育委員会で、保健体育の中でパラリンピックの種目を実施するというケースが、千葉県だと全校でやっていたが、愛知県はどうなのか。

また、アジア競技大会・アジアパラ大会組織委員会との連携だと思うが、パラアスリートが学校を訪問されていると思う。パラアスリートだけでなく、アジア競技大会に出場するアスリートもそうだが、アスリートと会うことはすごくインパクトがあることだが、それをさらに深める学びとして、パラリンピックで言えばパラリンピック教材というものがあり、それをリンクさせてやるとさらによいと思う。

#### (保健体育課)

東京オリンピック・パラリンピックの時には、パラリンピックの種目を学校で体験するとか、アスリートの学校訪問というのが愛知県でもありましたので、ぜひアジアパラ競技大会を契機に、そういった機会を作っていきたいと思っている。

また、実際に保健の教科書の中には、オリンピックやパラリンピックの分野もあり、それを使って体育の授業を実践するという学校も出てくると思っている。

#### (計画推進課)

パラアスリートの学校訪問について、計画推進課において、今年度、そして来年度も実施する予定である。パラアスリートに学校訪問に行っていただく際には、先ほど安藤委員の発言にあった、東京オリンピック・パラリンピックの時に作成された「I'm possible」の日本版、これをできる限り事前に学校の中の授業になるのか、もしくは家庭学習でビデオを見ていただくのか、という検

討は必要だが、取り入れていただきたいと考えている。

また、実際、私も何校も行かせていただいているが、パラアスリートをお迎えするにあたって、そのパラスリートのことを調べた壁新聞が貼ってあったり、「先生ようこそ」というような、そういう横断幕を児童生徒が作ったり、お迎えするという、まずその基本のところから、スポーツを通じて人に対するおもてなしというものが育まれているなどということをすごく感じている。

「I'm possible」については、計画推進課としても、引き続き教育委員会と連携し、パラアスリートが訪問しない学校についても、授業の中で取り入れていただくような通知を今年度も出させていただいており、ご活用いただきたい。

#### (来田会長)

体育の授業が楽しいかどうかというのは、今まで通りの教材をやるということではなく、様々な人と様々な経験をして教え合いをするというのがすごく楽しかったというデータは結構出ていると思う。学会でも出ている。

一方で、愛知県の教育実習で様々な学校に行かせていただくと、文科省からはおそらく指示が出ていると思うが、男女共習をやっていないところがあった。私は校長先生に「ちょっとまずいんじゃないですかね」と言って帰ってきたが、実際にその学校の若手教員は、大学では共習の重要性を学び、実施すべきだと考えていたが、市の教育委員会の方針で実施しないということになってると聞いた。この状況は、上手く情報が共有されていないところがあるかもしれないなど感じたので、より多くの人たちと様々な経験をして、せっかくこのアジア競技大会、アジアパラ競技大会が来るのをきっかけにして、少し働きかけをすると、楽しい体育というのがちょっと変わってくるかもしれないと思う。

## オ その他

なし

### (3) 閉 会

#### <事務連絡>

愛知県スポーツ推進計画の進捗状況については、本年7月頃までに、今年度の実績を確認し、審議会委員に報告する。

以上